

第32回 竹田高校関東同窓会 総会・懇親会

文化祭を彷彿とさせる“関東臥牛祭”



大分県立竹田高等学校
関東同窓会報
第56号

発行者・会長 菅博敏
編集者・委員長 衛藤淳
発行所・関東同窓会事務局
〒194-0013
東京都町田市原町田4-17-20
電話 042-725-5018

<http://www.geocities.jp/kantohtaketa/>

菅博敏会長



首藤勝次・竹田市長



服部眞二・竹田高校同窓会長



倉原浩二・竹田高校教頭



総勢260名が参加

戸林 知輝(昭62年卒)

平成30年6月30日、東京プリンスホテルに於いて関東同窓会第32回総会・懇親会が開催されました。今回は「関東臥牛祭」と題して、15名の来賓者、恩師の高山誠一先生、足立一馬先生にもご出席いただき盛大な会となりました。

総会では、都俊生幹事長(昭44年卒)の司会進行の中、始めに関東同窓会菅博敏会長(昭40年卒)より挨拶があり、今回の出席者は最年長者の布施泰義さ

ん(昭23年卒)から大学在学中の出席者の武内志帆さん(平26年卒)須藤拓也さん(平28年卒)神田康太郎さん(平29年卒)まで約260名の出席者となったことのほか、昨年一年間の関東同窓会の活動等が紹介されました。当同窓会の平成29年度会務・会計報告・監査報告が承認された後、来賓者を代表して倉原浩二竹田高校教頭(昭56年卒)、首藤勝次竹田市市長、服部眞二竹田高校同窓会長(昭42年卒)よりご祝辞があり、今の竹田高校の様子、竹田の風景、活動について紹介がありました。

懇親会では余興として、ふるさとクイズが行われました。最大に沸く会場の中、懇親会では長吉泉さん(昭26年卒)の機知に富む乾杯のご挨拶で雰囲気は更に盛り上がり宴席の開始となりました。

我が同窓生
柳亭市馬 師匠が登場!

総会終了の後、今年の同窓会最大のイベントとして落語協会会長でもある落語家柳亭市馬師匠(竹高・昭55年卒 本名・右藤泰幸)による落語独演会が催されました。一門の柳亭市馬の前座に始まり、市馬氏の独演では師匠の5代目柳家小さんが生前、天皇陛下に拝謁された際の話しや、永谷園のあさげ・ゆうげを飲んでいる姿は一度も見ることがないことなど面白おかしくエピソードを紹介いただいたあと、落語「妾馬」の話芸が披露され、更に余興としてプロ歌手でもある美声で「相撲甚句」も披露いただきました。

当日の懇親会司会者高嶋公介、民子夫妻(昭62年卒)による豊後大野、竹田地区にまつわる出題で、これまで考えもしなかった事実を知る機会となる中、志賀卓史さん(昭52年卒)の流暢かつ完璧な大分弁(たぶん今はそこまでの大分弁は誰も使っていないと思います。)によるコメントが皆を大いに笑わせました! 終盤では、竹田高校校歌を斉唱し、最後は全員で肩を組み、老若男女相変わらず隣の異性にドキドキしながらストーリーを踊り、そして、会はお開きとなりました。

冒頭の倉原教頭からの祝辞の中で、Facebook(フェイスブック)に竹田高校のページを開設したこと、そこへ関東に住む先輩からメッセージを送ることで在校生に夢、希望、励ましを与えてほしい(「木は光を浴びて育つ、人は言葉を浴びて育つ」)とお話がありました。我が竹田高校卒業生としては是非、竹高ホームページにアクセスし、竹田高校120年の歴史のDNAを後輩たちに伝えていきたいものです。当総会の当番として32年ぶりに集合した同級生たちが、阿吽の呼吸で仕事を連携していく様子を見ながら、竹高のDNAは今も僕たちの中に健在であることに感動しながら過ごす一日となりました。



高座後、菅会長はじめ役員と記念撮影。
市馬師匠（中央）の左には恩師の高山誠一先生。



演目は「妾馬」



高座での柳亭市馬師匠（落語協会会長）

総会・懇親会アルバム

撮影：岩崎智幸さん、大津祐二さん（昭52年卒）



司会の高嶋公介さん民子さん夫妻
（昭62年卒）



役員と当番幹事（昭52年卒・昭62年卒）



乾杯の音頭は長吉泉さん
（関東同窓会・初代幹事長）



▲再会を喜ぶ工藤厚憲さん（竹田・同窓会副会長）と池内昭二さん（ともに昭52年卒）



受付の華・当番幹事（昭52年卒・昭62年卒）の女性陣

姫だるまの似合う男・内藤賢一さん
（当番幹事・昭52年卒・昭62年卒の中心メンバーとして獅子奮迅の活躍でした。）



2017年度 の 合格状況

2018.3.31
竹田高等学校進路指導部

【国立大学】

学校名\年度	30	
	現役	既卒
茨城大	1	
岡山大	1	
広島大	1	
山口大	2	
九州工業大		1
長崎大	3	
熊本大	6	
宮崎大	1	1
大分大 医・医		
医・看護	2	
教育	2	
経済	5	
理工	7	
福祉健康	1	
国立大合計	32	2
	34	

【公立大学】

学校名\年度	30	
	現役	既卒
公立鳥取環境大	2	
山口東京理科大	1	
愛媛県立医療技術大	1	
高知工科大	2	
北九州市立大	2	
大分県立看護科学大	2	
名桜大	1	
公立大合計	11	0
	11	

【国公立大学】

年度	30	
	現役	既卒
国公立大合計	43	2
	45	

【私立大学】

学校名\年度	30	
	現役	既卒
大正大	1	
創価大	1	
東京農業大		1
立正大	1	
神奈川大	1	
近畿大	1	1
九州産業大	7	
西南学院大	2	
久留米大		1
福岡大		2
熊本学園大	11	
崇城大	3	
立命館アジア太平洋大	3	
中村学園大		1
西南女学院大	4	
別府大	7	
日本文理大	8	
九州栄養福祉大	1	
その他	20	4
私立大合計	71	10
	81	

【短大】

学校名\年度	30	
	現役	既卒
大分県立芸文短	8	1
別府大短大部	5	
別府溝部学園短	2	
その他	2	
短大合計	18	

【専門学校等】

学校名\年度	30	現役のみ
看護学校	11	
医療系(看護以外)	8	
情報系	2	
その他	27	
専修学校合計	48	

【公務員・自衛隊】

学校名\年度	30	現役のみ
海上保安庁	1	
警察(大分県警)	2	
豊後大野市(消防)	1(消防)	
自衛隊	4	

昨年120周年を迎えた、歴史と伝統を誇る竹田高校ですが、近年の少子化や高校受験生の竹田市・豊後大野市から大分市への流出の影響は避けがたく、ここ数年は入学生徒が定員割れとなる寂しい状況です。しかしながら、竹高生は「気力・

志・根性」を胸に、これからも歴史を刻み、伝統を絶やさぬよう頑張っています。進路実績については別資料に記載のある通り、昨年度は生徒の約3分の1が国公立大学合格、57・2%が大学進学(各種学校を含めれば86・9%が進学)と「学力の伸び率」は県下でもトップクラスの実績を誇っています。今年度の3年生も難関大学への進学意欲を持つ生徒をはじめ、開校時間の19時30分まで学校で学習する生徒や休日・祭日にも登校して自主学習

に励む生徒が見られ、今年度も優れた進路実績を実現してくれるものと期待できます。授業では我々教員が「アクティブラーニング」を取り入れた授業改善に日々取り組んでおり、「主体的・対話的で深い学び」が問われる新大学入試制度(2020年度から)に対応できる授業内容・実践について、県下の高校をリードしていると評価を受けています。

また、部活動では生徒が多彩な才能を開花させています。昨年度の「国際高等学校選抜書展(書の甲子園)では書道・吟詠部の衛藤鼓さんが個人最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞し、今年度も2名が「全国高等学校総合文化祭(長野大会)」



大分県立竹田高等学校
合澤哲郎 教諭
(昭和56年度竹田高校卒業
第34期生)

奮闘する竹高生たち

母校の話題

また、部活動では生徒が多彩な才能を開花させています。昨年度の「国際高等学校選抜書展(書の甲子園)では書道・吟詠部の衛藤鼓さんが個人最高賞である「文部科学大臣賞」を受賞し、今年度も2名が「全国高等学校総合文化祭(長野大会)」

吟詠・剣詩舞部門」に出場し文化連盟賞を受賞するなど活躍しています。器楽部も今年度「大分県吹奏楽コンクール」で金賞を9年ぶりに受賞、大分県第3位の成績を勝ち取りました。運動部でも野球部が春の「九州地区大会大分県予選」で県3位、全国大会出場常連の山岳部は女子が8月に三重県で開催されたインターハイで全国ベスト8に入るなど、様々なメ



書の甲子園で最高賞の
衛藤鼓さんと受賞作



金賞に輝いた器楽部



伝統をしっかり和受け継いでインターハイ出場の山岳部



喜びに沸く器楽部のメンバー

躍が紹介されました。

さらに、竹高が活性化嬉しいニュースとして、同窓会より「竹田高校南側隣接地を取得し竹田高校のために民間による各種施設(学生食堂、器楽部室、クライミング施設など)の運営を模索してはどうか」との提案があり、実現に向けての検討が開始されたとのアナウンスがありました。県立学校という枠組みからは到底考えられない

（参加者）衛藤義親、藤健二、小島俊一、児玉幹生、後藤十四生、田上忠、日小田真一、堀正孝、緒方和子、小島喜美子、佐田康子、瀬川悦子、宮崎加代、和田和子



今年（平成29年）のことになりますが、私たち昭和42年卒が古希を迎えたので集まろうということになりました。関東には68名のメンバーがいます。そのうち14名が参加できました。11月25日、初冬でしたが天気も良く、東京駅に集合し、はとバスツアーに参加しました。東京タワー見学の際は、たまたま大分県海岸部の物産展が催されていて「イリコ」「メザシ」「地酒」で盛り上がり、浅草から隅田川の川下りでの昼食でまたまた盛り上がり、と楽しい一日を過ごすことができました。

今回はこうした会に初めて参加した方もおり、また長崎から田上君がわざわざ駆けつけてくれたりもしました。これからも元気でまた集いあいしたいと思います。

昭和42年卒が「古希」を祝い集合

児玉 幹夫（昭42年卒）

クラス会・同期会

夢のような話なのですが、竹田高校の新しい魅力の創生として生徒・保護者・職員が大きな期待を寄せています。早期の実現が成されると良いですね。

今年はFacebookやホームページでの情報発信に特に力を入れており、竹高の活躍や魅力をタイムリーに掲載しています。

す。関東同窓会をはじめ全国各地の同窓生・保護者の方にも多く見ていただき「いいね！」を付けてくださることが、情報更新の励みになっています。どうぞ今後とも竹田高校の繁栄、そして更なる歴史の継承のために同窓会の皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

第3回竹田高校・関西同窓会総会懇親会が盛大に開催！

事務局長 首藤 亮治（昭53年卒）
平成30年9月22日（土）大阪第一ホテル（大阪マルビル）1階

ランプリモの間にて、正午より第3回関西同窓会が開催されました。出席者は、来賓7名・同窓生56名、総勢63名で開催されました。



関西同窓会本田会長よりご挨拶。これまでの関西同窓会の経緯や関西地区2府4県の同窓生会員約750名のこれまでの経緯及び状況報告を述べられました。

来賓として、竹田市代理の竹田市役所総務課長 池永徹氏（昭53年卒）の竹田市での取り組みなどの近況報告、竹田高校同窓会長 服部眞二氏（昭42年卒）、竹田高校校長代理の教頭 岩田秀士氏、東海大分県人会会長 山本栄次氏（昭42年卒）、関東同窓会会長代理の事務局長 山部光男氏（昭53年卒）のご挨拶をいただきました。

懇親会に移り、アトラクションでは、

平成30年度 関東竹友会

河野 智治（昭31年卒）

平成30年度関東竹友会を横浜桜木町ワシントンホテル24階の東天紅にて11月1日（木）参加者14名で開催しました。

先ず一同で物故者へ黙祷を捧げ、筑紫幹事長の経過報告等の挨拶、上田会長の挨拶を戴き、井君の乾杯音頭で懇親会に入りました。自由歓談の後、スピーチタイムに移り各自の近況報告で感動あり、笑いあいの一時を過ごしました。

また大分から大嶋さん、三ツ橋さんが亡き親友（会員）の墓参を竹友会開催に合せて上京し、出席してくれたことに絆を感じさせられました。

津軽三味線 大野敬正さんの演奏に続き、日本舞踊立花流 立花志乃（昭47年卒・井谷満）さんの演技で会場は一気に盛り上がり、終盤は校歌斉唱、会場内で一つの輪になりストーム、最後万歳三唱と続き、来年もこの場に集うことを約束し、閉会へと移りました。

関西同窓会世話人同士、関東同窓会に倣って更なる参加者・出席者の増員を図ることを目的とし、今後の発展を目指します。

そして、中村さんが故郷の竹田に大音楽堂「グランツタケ」が10月8日に落成したことや、合唱曲「私は空」を紹介してくれました。「私は空」の中に、久住高原、岡城、瀧廉太郎、サンチャゴの鐘等があり、故郷の香りが漂う雰囲気一同感動した次第です。

懇親会の最後は全員で「荒城の月」を合唱、校歌を斉唱して盛り上がり、佐藤君の発声による三本締めで閉会となりました



(参加者)
井英治、飯倉宗基、上田武男、大嶋恭代、河野智治、工藤重徳、佐藤重廣、高橋房枝、筑紫静慈、中村和子、橋爪重治、半澤桂子、三ツ橋みどり、渡部祥子

た。来年も11月1日金に横浜の海を一望できるこの会場で、再会することを約束して散会しました。

竹友会は昨年傘寿を迎えました。故郷竹田市の最高齢者は107歳で、わが会員の御尊父であられる由、私達も、米寿、卒寿を迎えられるよう精進していきなさいと思います。

なお、竹高8期生(昭31年卒)の「八翔会」(竹田に本部)は去る9月に解散しましたが、関東竹友会は可能な限り継続することになっております。

昭和52年卒 同期会

後藤 章仁(昭52年卒)

同期から 3人の高校校長を輩出

大分県の高松の校長に現在、3名の竹田高校出身者がいます。しかも3名ともに同じ学年でした(昭52年卒)。これはかなりすごいことではないでしょうか！

その3名がこの5月に全国高学校校長会にそろって参加する、というので、在京の同期が集まりました。

卒業後41年が経過していましたが、顔を見ればすぐに誰かと

わかり、多感な青春時代を同じ学び舎で過ごした日々が蘇りました。学校の帰り道によく立ち寄ったお店、当時の竹田の原風景、かなわなかった恋の話、はては少子化を迎える今後の高校教育の在り方(?)と、話は尽きませんでした。我々の年代は今年から来年にかけて還暦を迎え、退職という人生の大きな節目を迎えます。人生100年時代と言われますが、いずれ会社や学校を離れば今までの職場で付き合いがあった人とも疎遠になり、同級生はかけがえのない一生の友人でもあり、今後も末永くお付き合いを続けていこうと約束しました。

先日定年後の生き方に関連する本を読んでいたら、次のよう



緑が丘高校・近藤宣彦校長(前列右から二人目、大分鶴崎高校・後藤輝美校長(同3人目)、大分東高校・甲斐良治校長(同4人目))

な俳句が目に残りました。

「浜までは海女も襲着る時雨かな」
【滝 瓢水作】※

海女さんは海に潜るのが仕事なのだから必ず水に濡れることになる。しかしそんな海女さんでも雨が降っている日であれば、浜までは蓑を着て体をいたわるものだという。どうせ濡れるのだからと、時雨で体を冷やすようなことはしない。定年を迎える我々も、どうせ先が長くないからとあきらめずに、生きている間は生きているということとを大事にして、与えられた今後の人生を歩んでいこうと思いました。

※『知的な老い方』

(外山滋比古著・大和書房)

竹高関東26会

牛島 健二(昭26年卒)

晩秋の落ち葉も風に舞うかの様な一日、吾ら竹高26会健児!!一年振りに銀座に集いました。さすがに米寿前の皆さん、年相応な体裁で連れだって歩いて来る人、杖を頼りに各々が昨年同様通い馴れた(?)銀座会場に老体をそろえました。一旦会場に入れば70年前の高校3年生に逆戻りです。お互いの無沙汰非礼を謝し、現在を楽しく可笑しく懇談にと入っていききました。



平成最後の会に先立ち、5月に冥府入りした伊藤英介氏に哀悼の意を表し、阿南26会会長の談話、発会の音頭により懇親会へと...。3時間ばかり和気藹々、酒に食事に、クラスメートとの談話に、今の人生を満喫し、お互いの健康、長寿を祈念し合いながら、来年の26会を楽しみに冬間近な銀座を後に帰路につきました。



窓生 同登場①

私の釣り年代史(後編)

氏田 章治(昭37年卒・旧姓・植木)



氏田章治さん

平成13年(2001年)酒匂川の支流四十八瀬川流域全体。山から川、森から田畑すべての自然保護・保全を目指し、仲間15名で「四十八瀬川自然村」を立ち上げた。更に2007年NPO法人の認可が下り、加えて地域おこしも考慮することになった。

自然林・人工林の木こり作業、竹林・里山整備、炭焼、椎茸栽培、田んぼでは酒米一トン強、市内小学校2校の5年生の総合学習で「古代米づくり」指導。荒廃地利用はブルーベリー栽培



川の生き物教室

の外、農業法人格を取得し、野菜づくり。地域おこしを考え、酒米で作った「濁り酒」で毎年、お祭りを開催。更にアカデミックな活動では年4回、四十八瀬川上・中・下流3定点の水質環境・生物・植生の調査観測等々活動は多彩である。

特に神奈川県絶滅危惧種「カジカ」の調査・保護活動では生息域の調査に止まらず、上流への持ち上げ放流も実施し、「生物多様性ホットスポット」として申請中である。

この活動を通して自分の趣味が生かされ、自己完結というやり甲斐のある活動となった。

さて、総勢90名近くの仲間と楽しんでいる。一方、「達成感満点」のこのボランティア活動も高齢化は悩みである。それでも、少ない若いメンバーや毎年、研究と卒業論文作成のため、受け入れている大学4年生たちにも触発され、元気をもらっている。その元気でいずれば自分たちの活動を引き継いでくれるものと老骨に鞭を打ち続けている今日この頃である。

◎七十代の釣り?

「そうか。そう言えば、NPOの活動が、忙しくて随分イワ

ナ・ヤマメの顔を見ていないなあ。」
おわり

追伸 これが、私の「釣り年代史」ですが、本年7月初めの北海道遠征でイワナ64センチメートル・ヤマメ(サツキマス)53センチメートルの自己記録大幅更新の釣りをしてきました。



記録更新のサツキマス

3回にわたった拙文にも拘わらず、お読みいただき、本当にありがとうございます。お礼にこれを識っていると魚類専門の先生方や溪流釣りの面々から「溪流魚通」と一目置かれる竹田に関する雑学を二つ。

一つ目は、溪流の女王と言われるヤマメ(山女)は朱色の斑点がない「ヤマメ」ときれいな斑点のある「アマゴ」に分類されます。そして、後者の分布は静岡県以西の太平洋岸と四国全域及び、何故か、九州は大分県のみまでです。さらに、我が活動拠点の四十八瀬川を含む酒

匂川(神奈川県)はヤマメ・アマゴの両方が棲息。アマゴの北限河川です。

二つ目は、竹田の川に天然記念物「イワメ」と言う溪流魚がいることをご存知でしょうか。場所は大野川水系の源流「神原谷」です。無斑のヤマメカイワナのどちらかであるとのことでした。

ご興味おありの方は併せて、NPO活動の様子もネットでご検索ください。

※キーワード①四十八瀬川

②河川保護活動 ③活動記録 ※ジャンル「故郷訪問」は関東同窓会をふくむ竹田関係を掲載。URLは

<http://wind.ap.teacup.com/siyuhaseriv/>

窓生 同登場②

城原神楽を東京に呼びたい!

志賀 卓史(昭52年卒)

竹田の心の原風景『城原神楽』を我が関東同窓会の力で東京に呼びたいと思い本誌寄稿を思い立ちました。

今から10年前に総会懇親会に城原神楽招聘を成功させたこと

があります。その時は当番幹事だった昭和42年卒の先輩方のご尽力のたまものでした。そのご恩返しもかねて、10年後の今年、総会・懇親会で『城原神楽』をもう一度!!と様々に努力を重ねました。がしかし、柳亭市馬師匠の落語が実現できることになったこともあり、また費用面での限界もあり断腸の想いで断念いたしました。

しかし、「金がないなら知恵を使え」です。どうか同窓生の皆さんの「知恵の総力」を結集したい思います。

どなたか、『城原神楽』を東京に呼ぶ!ためのお知恵をください。

〈連絡先〉

『臥牛』編集担当 衛藤 淳

etoj@hotmail.com

FAX: 0422-4317762



見事な秋晴れの下で行われた今年の城原神楽(撮影・竹田市城原在住・大津祐二氏(昭52年卒))

ベネチアンガラスに魅せられて

島津 金吾(昭53年卒)

◎会社やめたと！

1989年6月。

まさに世の中はバブル絶頂期。

私は、三越、高島屋をはじめとする日本全国の百貨店の輸入特選コーナーにバッグ、ファッション、毛皮、貴金属、洋食器、家具等を納入する輸入商社に勤めていました。

夢は海外での商品買い付けです。そんな折、26歳の時、上司に恵まれていた事もあり、何故かニューヨークへの毛皮買い付けに抜擢されました。高級輸入品が飛ぶように売れていた時代、買い付け予算は6000万円、しかしながら、会社同士の決まったルートの中、買い付けたい商品がないにも関わらず、買わなければなりません。大人のルールですね。この矛盾に一

気に熱が冷め自分のほしいものを買うには、自分で起業するしかないんだと思うようになりました。

♪チャッチャッチャー チャッチャッチャッチャー 誰も知らない夜明けが明けた時♪

頭の中はいつも「ニューヨーク恋物語」、小さい頃から何故か海外に憧れていた私はこのドラマを機に気持ちには決定的になり、日本脱出のチャンスを見ようになりました。

◎チャンス到来!!

チャンスは訪れました。取引先のモデルクラブ社長からイタリア行きの打診があり、即決です。とにかく、日本脱出、怖いものなんて何もありません。Ciao Italia! この時には10年後の40歳で会社設立し、現在までベネチアンガラス関係の会社を

経営しているなんて夢にも思ってもいませんでした。

29歳でもう一度学生になり1日10時間以上の勉強。一生のうちで一番勉強しました。(もともと勉強は苦手でした!) フィレンツェの学校に通っているとき課外授業でベネチアに行くことになり、初めてカルニ



バーレを見たときの衝撃は今も鮮明に覚えています。

これが初めてのベネチアンガラスとの出会いでした。

帰国後、ここからが波乱万丈の人生の幕開けでした。いくつかのプロジェクトに参加し、大成功もありつつ、世はバブル崩壊へ。私が30代後半の頃に、ビジネス・パートナーたちは一人ずつ脱落していき何とか持ちこたえた私には借金しか残りませんでした。

そんな中、再びベネチアンガラスに再会します。やはりイタリア時代に知り合った JWP Corrado Cavaris というベネチアンガラスの工房が日本の展示会に出展するというのです。訪れてみると、びっくりするほど大繁盛でした。これはもしかしたら化けるかも?! プロジェクトチーム時代から、ものは全て商材として捉えるよう訓練されていたため直感でした。彼らは展示会終了後商品をすべて私に預けてくれました。在庫金額は日本円にして約300万円、これが今に至るベネチアンガラスビジネスの始まりでした。

◎ベネチアンガラスの魅力

以前、私はフランスのブランドでクリスタルガラスを使った

重厚なワイングラスに商材として興味を持っていました。「ベネチアンガラスのワイングラスは何かが違う」



五反田のショールーム『デッラルーナ』
(東京都品川区西五反田7-22-17
TOCビル7F 44号)

JWP 社の Corrado は12歳から修業し、現在では熟練した技術者にのみ与えられるマエストロの称号を持つガラス職人です。答えはすぐにはわかりました。Corrado 同様、熟練したマエストロがものを製作するときに意識していること。それは、ワイングラスは薄くて軽くなければならない。丹精込めて作った作りたてのワインの重さだけを直接感じてほしいから。作品はとにかく美しい。本家はそれだけではなく、それぞれの美しい魂を飾る為に作られるから。マエストロは作品に自分の魂を入れてはいけない。使う側の想いを際立たせる事を最優先。身に着けたひと、使うひとの想いによりベネチアンガラスの表情は幾通りにも表現される。手にとってくれる人の想いが表現されやうに作る「アドリア海の女王、神秘に満ちたミクロコスモス」色の数が3万色とも言われるベネチアンガラス。これは可視光線のみでとらえた数だけではなく、きつと、それぞれの想いによる表情のバリエーショ

ンも入っているということなんです。衝撃的でした。それまでの私の直感なんて「売れ筋かそうでないか」そして売ったらおしまい。単純なビジネス感覚でした。もともと一つの事・ものに没頭できない性格だった自分でしたが初めて没頭したのがベネチアンガラスのビジネスです。「もの」だけではなく、そこに関わった作り手のフィロソフィーは私にとって大きな財産になりました。決して儲かってるとは言えませんが、何とか19年続けることができています。60歳で下の娘が大学卒業予定。やっと本当にやりたいビジネスが出来そうで、わくわくしています。まんまとベネチアンガラスの魔法にかかったようですね(笑)。現在五反田のTOCビルに小さいながらもショールームがあります。基本はインポート&卸売りですが、年数回かセールもありますので是非ともお出でかけくださいね。

『臥牛』エッセイ募集!!

皆様からの力作をお待ちしています!

本誌『臥牛』におきまして『エッセイ募集』を行います。エッセイといってもきれいな文章である必要はまったくありません。『想い』を込めてください。同じ竹田高校に学んだ同窓生としての『想い』を共有しましょう。

応募要項

- テーマ ①高校時代の思い出
②故郷の思い出
③自由テーマ(自由な内容でけっこうです)

文字数制限 600字以上1,200字以内

- 応募方法 次のいずれかの方法で送付してください。
①ワード文書をEメール添付で送信する。
②ワード文書・手書き原稿を郵送するかFAXで送信する。

送付先 竹田高校関東同窓会・広報委員長 衛藤 淳 宛

郵送 〒181-0003 東京都三鷹市北野2-3-22

FAX 0422-43-7762

Eメール etoj@hotmail.com

訃報

慎んでお知らせ申し上げ、心からご冥福をお祈りいたします。

物故者御芳名

堀田 兆様(昭45年卒) 平成30年没

安部 一郎様(昭17年卒) 平成29年7月9日没

飛田 芳子様(昭11年卒) 平成29年11月30日没

松尾 脩様(昭27年卒) 平成30年1月30日没

須藤 勲二様(昭15年卒) 没年月日不明

和田 公昭様(昭26年卒) 没年月日不明

飯尾 真弓様(昭28年卒) 平成29年7月8日没

後藤 良宣様(昭27年卒) 平成30年1月2日没

※事務局へ連絡をいただいた方々を掲載させていただきました。

編集後記

●本誌初の試みとして『エッセイ募集』を行うことになりました。気軽に日記でも書くような調子で何でもよいので書いてみてください。

●今号では『クラス会・同期会』が多く集まりました。これからは積極的に紹介しますので、ぜひ

益永 紀子様(昭28年卒) 平成29年9月29日没

矢口 知子様(昭28年卒) 平成30年2月末没

山田 百子様(昭29年卒) 平成30年1月25日没

仲村 澤子様(昭31年卒) 平成27年10月28日没

平井 和子様(昭36年卒) 平成28年2月1日没

安藤 洋様(昭28年卒) 平成29年12月没

佐藤 健士様(昭26年卒) 平成30年6月11日没

伊藤 瑛介様(昭26年卒) 平成30年5月15日没

金山 豊美様(昭31年卒) 平成29年11月18日没

木下 照子様(昭31年卒) 平成30年4月9日没

松本 祐子様(昭49年卒) 平成30年3月8日没

ひ寄稿をお願いいたします。参加人数が少なくてもけっこうです。2〜3人ぐらいでもご紹介します。

●母校の最近の話題を合澤哲郎教諭が寄稿してくださいました。受験にも、部活動にも熱心に取り組んでいる様子が伝わってくる内容でした。特に昨年の「国際高等学校選抜書展(書の甲子園)」で衛藤鼓さんが文部科学大臣賞を受賞したことは大変な快挙だそうです。

●母校への図書寄贈による『大志文庫』も今年で5回目となります。現役生たちに薦めたい本がありましたら「一報ください」。

●『クラス会・同期会』の寄稿、『大志文庫』への図書推薦、いずれも左記、担当あてにお気軽に「一報ください」。よろしくお願いたします。



連絡先

〒181-0003

東京都三鷹市北野2-3-22

(広報委員長) 衛藤 淳 宛

TEL 090-9159-7231

FAX 0422-43-7762

mail to : etoj@hotmail.com